

平成28年度史跡井野長割遺跡整備検討委員会 議事録

○日時 平成29年3月3日(金)

15:00～18:00

○会場 1号館6階会議室

出席者

- (委員) 山本暉久委員長、設楽博己副委員長、山田昌久委員、山田康弘委員、
田代順孝委員、福井善樹委員、蕨由美委員
- (事務局) 鈴木千春課長、猪股佳二副主幹、小倉和重学芸員、小林弘典主事、
浅田蚩主事
- (オブザーバー) 四柳隆(千葉県教育委員会教育振興部文化財課埋蔵文化財班)、
吉野信之(井野小学校)

1. 文化課長挨拶

2. 視察(史跡井野長割遺跡)

公開予定範囲や遺跡周辺の状況を説明。

3. 報告事項(事務局より)

(1) 普及活動

- ・井野小土器作り・土器焼き
- ・教職員佐倉学研修への講師派遣
- ・伐採体験
- ・火起こし体験

*見学会・体験会には、平成26年6月に立ち上げられたボランティアの協力がある。

他、志津公民館・中央公民館主催の講座への講師派遣

(2) 維持管理

(北側住宅沿い、東側斜面部、谷底部の下草刈りや剪定・伐採、ボランティアによるごみ拾い)

- ・井野小学校にある井野っ子山の枝折れや越境木の剪定・伐採が頻繁になってきた。これまで平成25年度から5か年計画で指定地内、とくに北側住宅側を優先的に剪定・伐採を実施してきたが、今後は、井野っ子山の維持管理についても実施計画に位置付けていく必要がある。この点については、学校・教育総務課と協議した

い。

(3) 2月定例議会一般質問

3月1日、冨塚忠雄：進捗状況と今後の方針について

(4) 住民意見交換会

防犯カメラの設置については、セコムの助言によれば現状のままでは効果が薄いとのこと（下草や枝などの障害が多いこととフェンスと併設しないと侵入は防げない）。ただ、カメラがあるということで多少の抑止力にはなる。併せて目隠しを含めた侵入制限のための柵の設置についても話した。直接関係する史跡境界宅の方々との直接の相談となる。

4. 検討事項

(1) 公開範囲と方法

A委員：どういう目的でどういう人を対象に公開するかという目標が必要。例えば、井野小学校以外の学校の歴史の授業に活用する等、いくつかの方法を考えた方がいい。

文化課：小学校と連携を取り合うようにする。教師を対象にした研修会では、井野長割遺跡を教材として使えるよう説明した。今後も続けていく。派遣要請があれば喜んで対応させていただく。

B委員：公開先にありきで、整備計画が明確になっていない。どの年度にどの段階まで公開するという見通しを明確にしてほしい。

県職員：数年前と比べるとある程度先が見えてきたが、まだ最終的な目標点が不明瞭である。

文化課：ロードマップを作成し、目標を明確にしたい。

C委員：市の単独事業ではなく、国庫補助事業なので、文化庁からオブザーバーを呼び、国の考えも聞きたい。

B委員：国庫補助事業として進めるなら、住民の理解を得られるような計画が必要。住民意見交換会でいただいた意見に基づいて、公開範囲を決めていくべきである。

C委員：住民意見交換会とは別に、近隣住民だけでなく地域全体の住民が参加する住民協議会のようなものはないのか。

A委員：市が住民に対して説明を行う説明会より、住民と一緒に動くことをしたほうがいい。

C委員：森の管理の話に留まっている。この先は活用に向けて話を進めてほしい。

文化課：近隣住民の方も森として管理することに関しては協力すると言っていただけいている。そういう形で一緒に活用することはできると考えている。

A委員：遺跡をどう活用するか。例えば、福岡市の板付遺跡では、小学校の1～6年生に学年ごとに内容を決め段階的に体験を行っている。

井野小教員：井野小学校6年生を対象とした土器づくり授業は、歴史の学習の導入に役立っている。ただ、他の学年の児童や6年生担任以外の教員は、井野長割遺跡がどういう遺跡かよく理解していない場合もある。

A委員：6年生以外の各学年にも遺跡に関わる機会を作ってほしい。草木や虫の観察等もできるのではないかな。

井野小教員：学校敷地内で土器片が見つかることもあり、興味を持つ児童は多い。また、自然観察という面では、遺跡の一部である井野っ子山を全学年の児童が日常的に活用している。歴史以外の分野から活用方法を考えることはできると思う。

D委員：まちづくり協議会や自治体で活動する場を探している団体もあるので、声掛けをしてはどうか。ユーカーリが丘地区全体で遺跡に興味を持ってもらえる可能性もある。

文化課：志津地区でいえば、毎年文化課職員が志津公民館で井野長割遺跡を学ぶ講座を行っており、参加者は関心を持ってきている。また、井野っ子山についてはPTAやボランティアが維持管理、美化活動を行ってくれている。まちづくり協議会には、今のところはアプローチしていない。市民部自治人権推進課に相談をしてみる。

E委員：考古学に興味がある人以外に遺跡を見てもらうなら、近隣の上座貝塚や千手院等も含めたルートで見学会を開催するのはどうか。幅広い時代の歴史を学べれば、新しい層も来てくれる。また、ウォーキングを目的として参加してくれる人もいると思う。

B委員：整備がある程度進んだ今、活用の観点から再度見直しをすべき。

C委員：先程の視察で伐採を市職員が行っていると聞いたが、危険な場合もあるので、樹木医等の専門家に相談してはどうか。ボランティアで相談に乗ってくれる場合もある。また、長割公園からは遺跡の全貌を見ることができるので、公園方向からどの程度見せるかについても考えながら整備してほしい。

文化課：平成27年度に緑地管理を行っている業者に樹木調査を委託した。調査結果は内部資料として保管しているので、今後の伐採に活用していく。

C委員：新しくイオンタウンもできたので、その周辺も含めればより多くの住民に関わってもらえるのではないかと。市だけですべてを行うのではなく、地域との連携が必要。

文化課：イオンタウンとは市が連携協定を結んでいる。無料でスペースを貸してもらえるとこのところまでは話が進んでいる。

県職員：県文化財課でも津田沼イオンで展示を行った。普段遺跡に関わりのない方の目に触れる機会を作ることができ、効果は大きい。

F委員：遺物を展示する場合、安全に管理を行えるか。

文化課：今のところは、遺物等の写真パネルの展示や体験を考えている。

県職員：報告書に載らない遺物を活用して遺物に触れることができるコーナー等を作ったり、遺物を学習キットとして貸出するという方法も考えられる。このような視点からも活用のアイデアを出すことができるのではないかと。

A委員：整備についてだが、木を伐採したら他の植物が増えてしまうこともあるので、注意が必要。そういったことも含めて計画にまとめてもらいたい。整備が進んでいるのはいいが、公開することになったときにどのように住民を呼び込むか考えたほうがいい。

文化課：近年バイパスも通り、人通りも増えたので、市としては南側一部だけでも多くの人に見てもらいたいと考え、整備を進めていた。

F委員：バイパス側に遺跡だということがわかるようなものはないのか。

文化課：標柱と案内板を設置したい。立体模型の設置も検討している。そういった計画も含めてロードマップにまとめていく。

G委員：M4までの公開に反対されるようなら、住民と協議して公開範囲を考える必要がある。M1とM3の間に立つと遺跡を立体的に見渡せる。この地点なら住宅からも見えな
い。住民にも遺跡に入ってもらい、現地を確認してもらいながら説明してはどうか。

A委員：ビューポイントを表示するのはどうか。

文化課：住民からは、公開するなら段階的にしてほしいというご意見を伺っている。長期
の計画になるが、住民と協議しながら進めていきたい。

C委員：市側から住民組織に声掛けし、地域とのグループ化を早急に行ったほうが良い。

E委員：キツネノカミソリ、サクラオグルマ等の植物とも共存できるような景観にしてほ
しい。

文化課：珍しい植物をアピールしすぎると摘み取られてしまったという事例もあるので、
そこには注意したい。伐採等の整備を始めてから新しく見つかるようになった植物もある
ため、今後も自然を大事にしながら管理を行う予定である。本日いただいたご意見を踏ま
え、整備・活用のより具体的な計画を作っていく。